

明専会110年の絆

Ⅱ老・壮・青・男・女が和気藹々に交流する明専の絆Ⅱ

明専会 会長 高原 正雄（機43）



新年おめでとうございます。

明専会会員の皆さまにおかれましては、新しい希望を胸によいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

5年前に発生したコロナ禍がやっと収まったと思っただけで、昨年の正月は、能登半島の大地震、そして、日航機の衝突炎上事故や、小倉・鳥町の大規模火災といったとんでもない幕開けになりました。そして、昨年にもまた、大雨をはじめ大きな自然災害に見舞われました。被災された多くの方たちに心よりお見舞い申し上げます。明専会本部は、自然災害の度に被災地の支部に会員の安否や被害などを確認しておりますが、幸

いにして、会員の皆さまには大きな被害がありませんでした。引き続き日ごろから災害に備えた努力を行っていたいただきたいと願っております。

一方、世界情勢は、年々、ますます不安定で破滅的な方向に進んでおり、ロシア・ウクライナ、イスラエル・ハマスの戦争状態は終わりがまったく見えない形になり、その結果、日本を取り巻く環境も安心できない状況になっております。また、日本ではかつてはなかったような犯罪が頻発する時代になっております。新しい年の初めに、この一年が安全で幸せな年になっていただきたいと心から願う次第であります。

さて、明専会は1915（大正4）年に明専学士會として発会し、本年11月14日に設立110周年を迎えることになりました。2015（平成27）年に、明専会100周年記念事業をスタートして、この10年間、精力的に推進してきました。それらの事業内容の

基本は、いずれも明専会会員の絆を育み、その強い絆と熱い母校愛で大学・学生を支援することでありましたが、会員の皆さまのご協力によって、当初に立てた目標を100%達成することができたと評価しております。

主な事業は、「明専塾」、「明専スクール」、「中村記念館のインテリジェント化」、「学生プロジェクト支援」、「グローバル人材育成支援」、「大学研究支援」、「学生部活動応援」などでありましたが、その実現のために、会員数を増やし「盤石な財政的基盤」を構築することに努力しました。それをベースにして「老・壮・青・男・女の会員が和気藹々に交流する明専の絆」に発展させることもできました。そして、「めいせんホール」や「明トラ世界大会」、「新入生歓迎フェスティバルへの参加」、「工大祭への参加」、「海外明専学友会の拡充」などを軌道に乗せることに成功したことが、絆を大きく膨らませることになりました。

本年、明専会が110周年を迎えるに先立って、2023（令和5）年に明専会110周年記念事業企画委員会を発足させました。「大学とのコラボ

レーションの強化」と「多様で新しい絆の育成」をキーワードとし、次の9つの事業を企画し推進に取り掛かっています。

- ① 明専会110周年記念式典
- ② 中村記念館活用事業
- ③ 同窓の絆（含 多様性）の拡大
- ④ 2020基金事業の推進
- ⑤ 大学のリカレント・リスクリング教育制度への支援
- ⑥ 明専会100年の群像の改訂
- ⑦ 明専会100年の歩みの改訂に向けての準備
- ⑧ 会員名簿（令和7年版）発行
- ⑨ 新募金制度の構想

これらの事業を成功させることにより、母校支援と同窓の絆を益々強化する契機にしたいと考えております。明専会の会員であることにより、和気藹々の絆を持てる喜び、母校を支援できる喜び、それを感じ取れることこそが会員である最大のメリットになれることを願っております。

最後に、私はこの3月の総会の日を以て12年間務めた第7代明専会会長職を辞することにいたしました。永年のご支援に感謝申し上げます。

（いすゞ自動車株式会社 理事）